世界のお話 1 こども図書館

花岡大学

さるのてぶくろ

童話 民話 神話

世界のお話1こども図書館

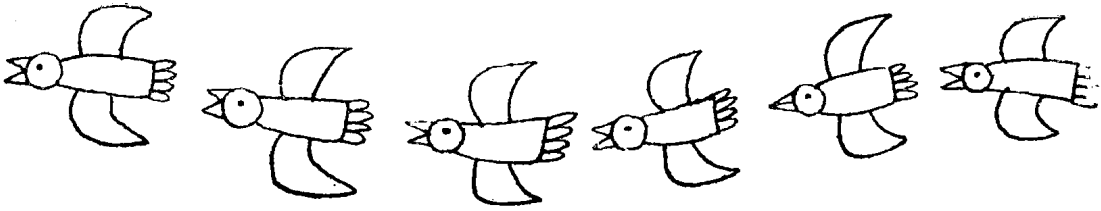
さるのてぶくろ

昭和四十三年十二月二五日印刷
昭和四十四年一月一日発行
定価 四五〇円
著者―花岡ナ学
発行者―横山実
印刷者―上田庄之助
発行所―大阪教育図書株式会社
東京都千代田区神田錦町三の一七
大阪市東住吉区田辺西之町六の四
郵便番号東京―一〇一 大阪―五四六
©1969・花岡大学・上田印刷・堀越製本
落丁本・乱丁本はお取り替えします

さるのてぶくろ

花岡大学

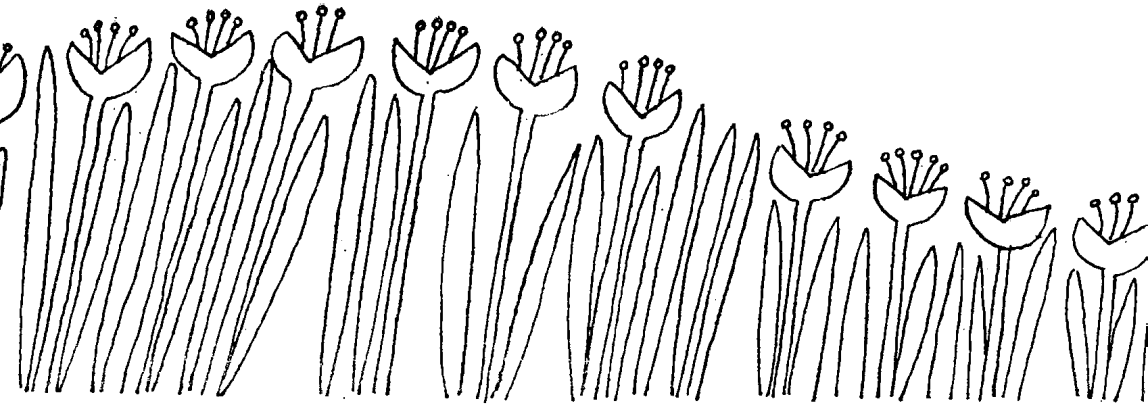
大阪教育図書



はじめに

この本は、名高い世界の童話、民話、神話のなかから、もっともすぐれたお話を、いくつかづつえらびだしてつくったものです。

そのいずれもが、きっと、みなさん方の心をとらえてはなさないでしょう。こどものころに、そういう経験をもつということが、人間を形づくる上に、とても大切なことなのです。読んだあと、おかあさんといっしょに、いろいろと話しあってください。



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はじめに

童話

こどもをなくしたライオン……九
釘一本……一八
ソファムの夢とロンドンの夢……二四
欲ばりの赤てんぐ……三二
さるのてぶくろ……四〇

民話

ひつじかいとライオン……四九
石のさいばん……五九
ころころパン……六七

海の水はなぜ塩からいのか……七五
弱者どうめい……八四

◇神話◇

パンドーラーのはこ……九三
あたらしい国……九九
しあわせなくつや……一〇九
ノアのはこ船……一一七
月の中の子うさぎ……一二三

＊　＊

お話の解説……一三一

■装幀

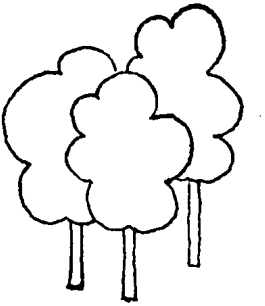
尼谷義雄

■さしえ

大古尅己

大竹昌夫

童話



こどもをなくしたライオン

その森は、ライオンにこどものライオンが生まれてから、すっかりかわってしまいました。

その森にすんでいる、いろいろなけだものたちは、じぶんたちのこどもを、うっかり外へだすこともできなくなったのです。

ライオンは、こどものライオンにたべさせるために、ほかのけだものたちのこどもばかりねらって、おそいかかってきました。

こどものにくは、やわらかくて、おいしくって、こどものライオンにたべさせると、こどものライオンが、とてもよろこぶからです。

だれだってじぶんのこどもを、よろこばせたいとねがわないものはいませんけれど、ライオンのこどもをよろこばせるために、ほかのけだものたちは、かわいいじぶんのこどもをとられ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

てしまうのですから、たまったものではありません。

森のけだものたちは、ちっともゆだんができないで、びくびくびくびくしてくらしていました。いくらライオンが強いからといって、たった一ぴきのじぶんのこどもをよろこばせるために、たくさんなけだものたちを、そんな不幸な目にあわせるなんて、あんまりわがまますぎるといわねばなりません。

ある日、森のけだものたちは、こっそり集まって、なんとかして、そういうライオンのわがままをやめさせようと、相談いたしました。

相談のすえ、熊がみんなの代表となって、ライオンのところへ、「やめて、ほしい。」とたのみにいってもらうよりほかはないと、いうことになりました。

熊は、ライオンのつぎくらいに、力が強いから、いくらわがままなライオンだって、ひょっとしたら、熊のいうことを、きいてくれるかもしれない、と思ったからです。

つぎの日、熊はさっそくでかけました。

そして、

「ライオンさん、あなた一人がその気になって、ほかのけだものたちのこどもを、とらないよ

うにしてくれましたら、この森のみんなは、前のように、とても平和で、あかるくくらすことができるようになるのです。ねえ、たくさんな、けだものたちのために、どうか一つ、思いかえしてくれませんか。」

といって、たのみました。

でもライオンは、「ふん」と鼻で笑って、いきなり大きな声で、熊にどなりつけました。

「さっさとかえれ！　それとも、ひどい目にあわせてほしいのか。おれは、お前どものさしずはうけんわ。どんなにたくさんな弱虫どもが、ふるえていようと、そんなことより、おれにとっては、このかわいい一匹のこどもの方が、どれだけ大事だかわからんのじゃ。わかったか。わかったらさっさとかえれというのに。それとも、くやしかったら、かかってこい。いつでも、あいてになってやるぞ！、はっはは……。」

熊は、思いきって、ライオンにとびかかって、ひきさいてやろうかと思うほど、腹がたちましたが、しかし、とびついていっても、熊には、ライオンをたおす自信はありませんでした。

それで、すごすごひきさがって来ましたが、どういうふうに話がついたろうかと、まっているみんなのところへ、「だめだったんだ。」といっては、どうしても、かえるわけにはいきま

せん。

みんなの力を落しかなしむ顔が、目の前にみえてきて、かえれないのです。

それで熊は、みんなのまっているところとは、反対の、森のむこうの谷間の方に向って、すたすたと歩きはじめました。

もうこうなれば、谷間にすんでいる狩人に、たのむよりほかはないと、かんがえたからです。

この狩人は、けだものや、鳥を、とらえることを仕事にしていながら、前からこの森の中では、けっして鉄砲をうたないことにしている、かわりものでした。

あるとき、鹿をうちたおしたところが、この森にすんでいるけだものたちがあつまってきて、力をあわせて傷のついたその鹿をたすけて、はこんでいくようすをみたので、すっかり感心してしまったからです。

熊は、手振、身振で、「みんなの平和のために、ライオンを打ちとってもらいたい。」

と、一生けんめいになって、狩人にたのみました。

一生けんめいになれば、たいしたもので、熊のたのみは、やがて狩人にわかったらしく、

「よしよし、このなかよしの森の、お前たちのためなら、よろこんで、わしの力をかしてあげ

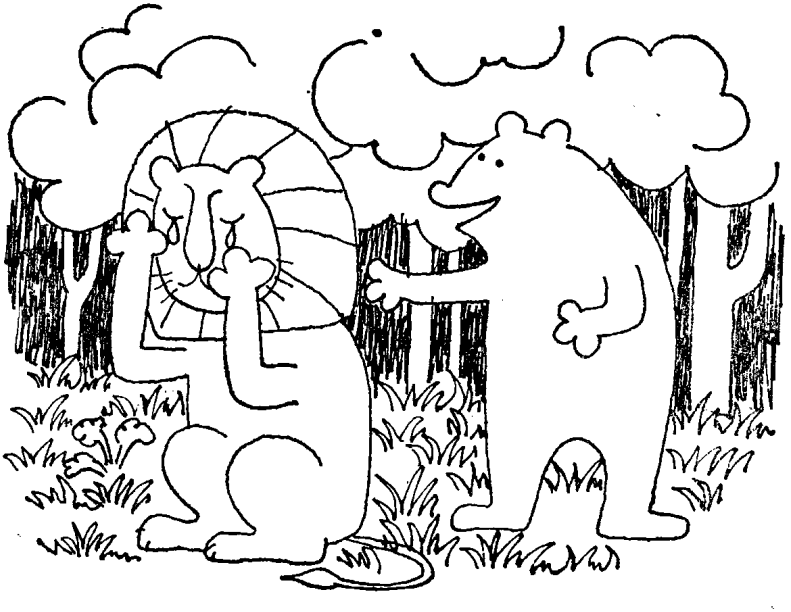
よう。」と、いってくれました。
そのつぎの日の、おひるごろです。
長いあいだ、きいたことのない、おそろしい鉄砲の音が、とつぜん、森の中にひびきわたりました。
けだものたちは、
「あっ！　とうとう、やっつけてくれたな。」
といって、息をころして、じっとようすをうかがっていました。
するとほどなく、ライオンのおそろしいうなり声が、森の木々をふるいあがらせました。
「狩人は、ライオンを、うちそこなったのかな？」
熊は、しんぱいそうに、身動きもしないで、耳をすませていました。
ライオンのうなり声は、それからのちも、ひっきりなしにおこり、そして、やがてそのうなり声が、こどもライオンが、狩人にうたれて殺されたための、かなしみの泣声であるということが、わかりました。
その声は、ひぐれになっても、夜になっても、遠く山々に、谷々にひびきわたって、うちつ

づきました。

あれだけかわいがり、あれだけよろこんていただけに、こどもライオンをうしなったライオンの、そのかなしい泣声は、その声でねむれない森のけだものたちにも、さすがにあわれに思われるほどでした。

熊は、親のライオンを、うちたおしてもらうように、狩人にたのんだことが、まちがって、こどもライオンが殺されることになったとはいえ、いずれにせよ、自分がたくらんだことなので、なんとなく、ライオンをなぐさめてやりたくなって、そっとそばへよっていきました。

そして、今こそ、まちがった考えをもちつ



づけてきたライオンに、思いかえしてもらうために、たいへんいいきかいだと考えて、声をかけました。

「ライオンさん！　お子さんがなくなったそうで、おきのどくなことです。でも、もうそんな森のけだものたちが、みんなねむられないような、大きな声をだして泣くのは、どうかやめて下さい。」

すると、ライオンはいいました。

「泣くなといっても、泣けてくるんだ。かわいいこどもが、もういなくなったかと思うと、どうしても泣かずにいられないのだ。」

「そうでしょう。ライオンさん、じぶんのこどもをなくするということは、つらいことでしょう。よくわかります。おきのどくです。だが、ライオンさん、あなたは、きのうまで、あなたのこどものライオンさんにたべさせるために、この森のこどものけだものばかりねらって、ずいぶんたくさんのこどもたちを、殺しておいでになりましたが、それらの一匹一匹のこどもたちには、父親も、母親も、いなかったでしょうか？」

「それは、あったろうよ。」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com